



4月のタイ経済は新型コロナウイルス感染症の拡大でさらに縮小

▶ 要点

- ▶ 2020年4月のタイ経済は新型コロナウイルス感染症の拡大でさらに縮小傾向にあります。製造、民間投資、輸出など全ての経済部門が落ち込みました。特に外国人観光客数が大幅に減少しました。また、国内外全体の需要の落ち込み傾向により、工業生産も大幅に縮小しました。
- ▶ 2020年5月の消費者物価の上昇率は、前年同月比3.44%縮小し、3ヶ月連続のマイナス伸びでした。新型コロナウイルスの感染拡大の影響に加え、石油製品の価格下落を背景にエネルギー部門が低下しました。一方で、振れ幅の大きい生鮮食品とエネルギーを除くコア・インフレ率は同0.01%の上昇で、前月と比べ減速となりました。
- ▶ カシコンリサーチセンターは、新型コロナウイルス感染拡大の影響について市民意見調査を行いました。調査対象者はタイ国内在住の男女1,000名でした。調査結果は、社会的距離戦略による成人の52.5%が収入減少しました。そして、雇用されている労働者の43.8%が以前と比べて節約しています。この調査結果に基づいてカシコンリサーチセンターは2020年の民間消費の成長率見通しをマイナス2.3%に下方修正しました。
- ▶ 新型コロナウイルス感染拡大に伴う国内外の景気悪化が主要因となり、カシコンリサーチセンターは、タイの2020年のGDP成長率見通しはマイナス6.0%に下方修正しました。

▶ タイ経済の動向

2020年4月のタイ経済情報

タイ中央銀行が発表した2020年4月の重要な経済指標によると、タイ経済は、新型コロナウイルス感染症対策がタイ国内外で強化されたことから、さらに縮小しました。製造、民間投資、輸出など全ての経済部門が落ち込みました。特に観光業が大きな影響を受けました。

4月の民間消費は前年同月比15.1%縮小し、引き続きマイナス成長になりました。タイ正月（ソンクラーン）休暇の延期、新型コロナ対策での都市封鎖が影響しました。旅行者の支出が89.0%減、耐久消費財が37.5%減、サービスが31.9%減、非耐久消費財が11.7%減、半耐久消費財が6.9%減でした。

一方で、民間投資は前年同月比6.1%縮小しました。建材の販売が17.0%増、建設認可を受けた土地の面積が1.1%増となりました。しかしながら、商用車の購入が25.4%減、機械・設備を中心とした資本財の輸入が17.5%減、国内の機械販売が4.5%減となりました。

2020年4月のタイ経済指標成長率（Y-O-Y: 前年比）



4月の輸出は、前年同月比3.3%減の179億米ドルとなりました。多くの商品で縮小しています。特に自動車・部品、電化製品、機械機器が大幅に落ち込みました。世界の多くの国が都市封鎖を実施した結果です。

工業生産に関しては、前年同月比17.2%減となり、12ヶ月連続でマイナス成長となりました。国内外全体の需要の落ち込み傾向により、工業生産も縮小しました。

観光業では、外国人観光客数が前年同月比100.0%減となりました。新型コロナウイルス感染症を封じ込めるため、タイへの入国を禁止する措置が取られたことが理由です。外国人観光客が消えたことは観光関連産業にも大きな影響を及ぼしています。

2020年5月のタイのインフレ率

商務省が発表した2020年5月のヘッドライン・インフレ率は、前年同月比3.44%縮小し、3ヶ月連続のマイナス伸びでした。新型コロナウイルス感染症の影響の緩和策として、生活必需品や電気・水道料金などが引き下げられたことが影響しました。それに加え、石油製品の価格下落を背景にエネルギー部門が低下しました。

品目別にみると、非食品・飲料部門が前年同月比5.42%低下しました。このうち運輸・通信は9.15%減、大幅に低下しました。一方で、食品・飲料部門は前年同月比0.01%低下しました。米・粉製品が6.03%上昇した一方で、果物・野菜は供給過剰と需要縮小により8.80%低下し、過去3年間で最低となりました。

一方で、振れ幅の大きい生鮮食品とエネルギーを除くコア・インフレ率は、前年同月比0.01%の上昇で、前月と比べ減速となりました。

4月の外国人観光客数は、前年同月比100%減。

図1: 民間消費及び民間投資(成長率: 前年比)

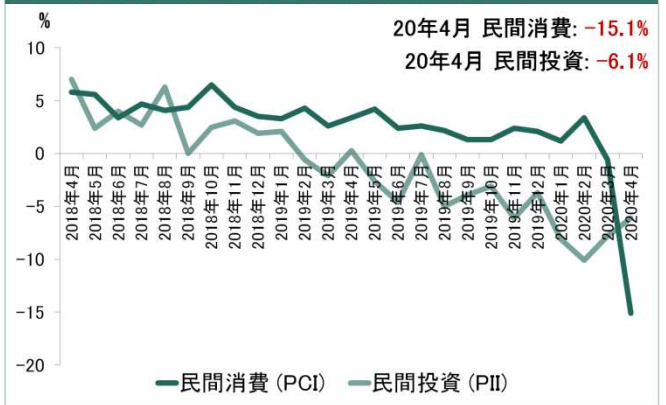


図2: 輸出、工業生産、外国人観光客数(成長率: 前年比)

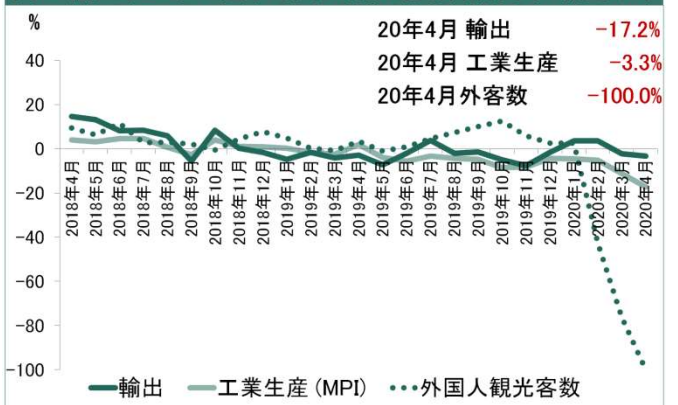


図3: ヘッドラインインフレ率及びコアインフレ率

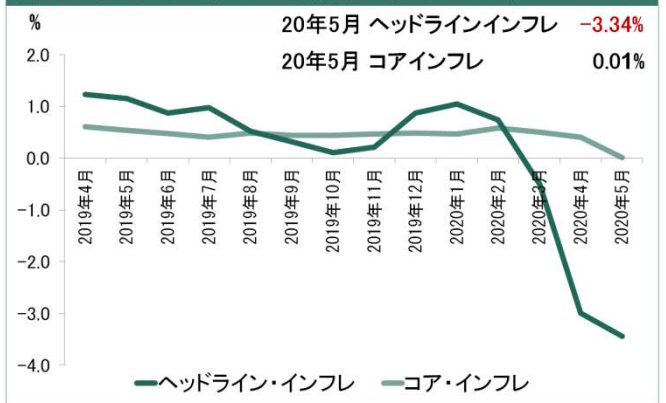
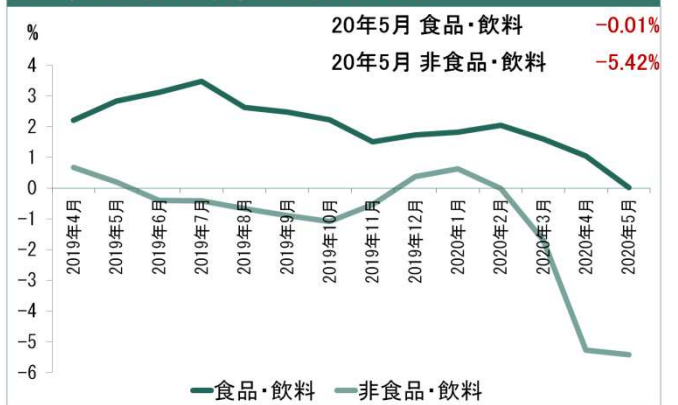


図4: 食品・飲料と非食品・飲料の価格



出所: タイ国中央銀行、タイ国工業省、タイ国観光・スポーツ省、タイ国商務省

新型コロナウイルス感染拡大の影響でタイの 2020 年の GDP 成長率見通しを-6.0%に下方修正

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2020年第1四半期（1～3月）の実況 GDP 成長率は前年同期比マイナス1.8%に転じました。四半期の GDP 成長率がマイナスに転じたのは2014年以来6年ぶりとなります。

カシコンリサーチセンターは、新型コロナウイルス感染拡大の影響について市民意見調査を行いました。調査対象者はタイ国内在住の男女1,000名でした。調査結果は、社会的距離戦略による成人の52.5%が収入減少しました。そして、雇用されている労働者の43.8%が以前と比べて節約しています。この調査結果に基づいてカシコンリサーチセンターは2020年の民間消費の成長率見通しをマイナス2.3%に下方修正しました。

そして、国際通貨基金（IMF）による最新の世界経済見通しは、2020年の経済成長率が前年比3%減になります。アメリカ、イギリス、ドイツ、日本をはじめ主要国経済が過去数十年で最も早いペースで縮小し、1930年代の世界恐慌以来で最悪の景気後退に直面すると予想されます。従って、カシコンリサーチセンターは輸出成長率見通しをマイナス6.1%と輸入成長率見通しをマイナス10.9%に下方修正しました。

要するに、新型コロナウイルス感染拡大に伴う国内外の景気悪化が主要因となり、タイの2020年のGDP成長率見通しはマイナス6.0%に下方修正しました。

図5: 2019年～2020年タイ国経済指標

経済指標 (%YoY)	2019年	2020年(見通し)	
		2020年3月の予測	2020年6月の予測
GDP 成長率	2.4	0.5	-6.0
- 民間消費	4.5	1.8	-2.3
- 政府消費	1.4	2.3	2.0
- 民間投資	2.8	1.0	-6.6
- 公共投資	0.2	3.3	3.1
- 輸出成長率	-2.7	-5.6	-6.1
- 輸入成長率	-4.7	-7.8	-10.9
ヘッドライン・インフレ率	0.7	0.4	-0.5

出所: NESDB, MOC, カシコンリサーチセンターの予測 (2020年6月)

2020年のGDP成長率
見通しはマイナス6%
に下方修正。

Disclaimer

This research paper is arranged for public information, which has been obtained from sources believed to be reliable. KResearch does not warrant its completeness, reliability or accuracy for commerce or fitness for a particular purpose. The information contained herein may be subject to change at any time without notice. Reliance upon any information contained herein shall be undertaken at a user's own risk KResearch shall not be liable to any user, or anyone else for any damage occurring from the use of any content herein. Nothing in this research paper shall be counted as containing any advice, recommendation or opinion for decision making in business.